

仙台市スポーツ推進計画  
2022-2031  
人とまちが元気に輝き続ける  
-Sports City SENDAI-  
中間案  
概要版

# (1) 計画策定の趣旨

本市では、平成 24 (2012) 年に「仙台市スポーツ推進計画 2012～2021」(以下、「現計画」という)を策定<sup>※</sup>し、「人とまちの元気をはぐくむ『スポーツシティ仙台』」の基本理念のもと、「する」「みる」「ささえる」「ひろがる」の4つの柱を基本目標に据え、各施策に取り組んできました。令和 4 年 3 月末で計画期間の終期を迎えることから、これまでの取り組みや社会情勢の変化、多様化するライフスタイル等の状況を踏まえ、今後 10 年間のスポーツ施策について、総合的な推進を図るための基本的な計画として、「仙台市スポーツ推進計画 2022-2031」を策定します。

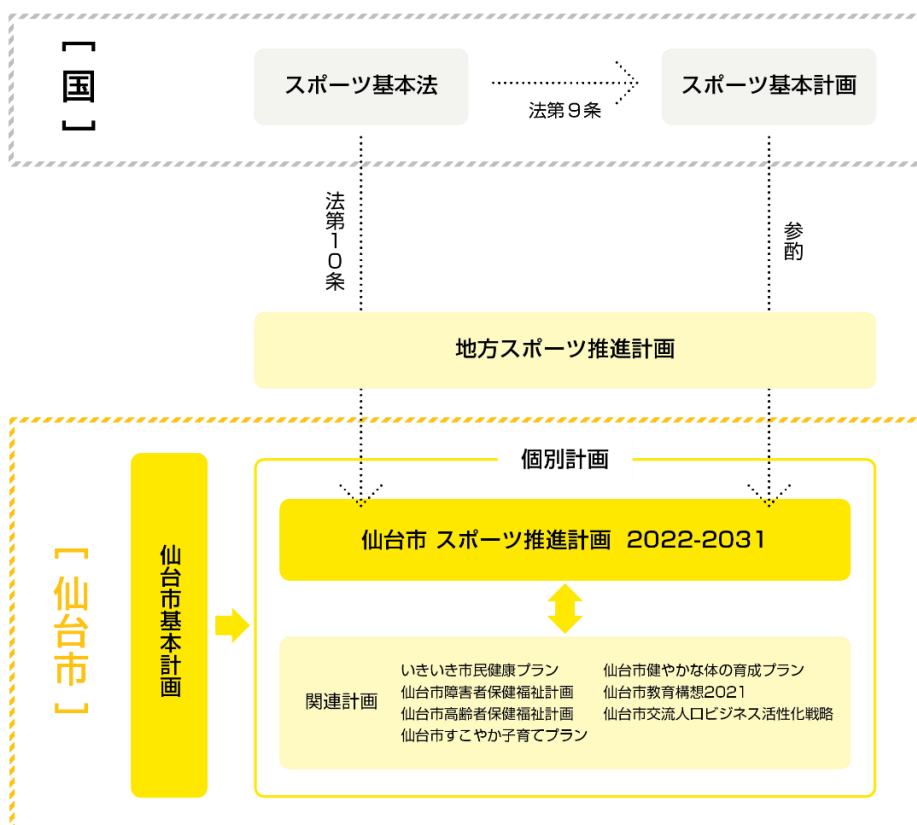
※平成 29 (2017) 年改訂

# (2) 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第 10 条における「地方スポーツ推進計画」として位置付け、仙台市基本計画を上位計画とした、本市におけるスポーツ推進の基本となる計画です。

# (3) 計画の期間

本計画は、令和 4 (2022) 年度から令和 13 (2031) 年度までの 10 年間を見通したものととして策定しますが、具体的に取り組む施策や数値目標等については、令和 4 (2022) 年度から令和 8 (2026) 年度までの 5 年間の内容とします。なお、本計画は、計画の進捗状況、社会情勢、国の政策動向等の変化に応じて、中間年(令和 8 年度)に必要な見直しを実施する予定です。



## (4) 本市スポーツ推進計画におけるスポーツの範囲

本計画では、野球、サッカー等の競技種目から、レクリエーション活動、健康・美容のための散歩や体操等の軽い運動、徒歩や自転車による通勤や買い物等の日常生活における活動まで、**意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え**、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。



## (5) スポーツの力

スポーツは、楽しさや喜び、達成感といった前向きな感情を引き出す直接的な力を持つとともに、健康の保持・増進への寄与、さらには、地域の一体感・活力の醸成、地域経済の活性化など、個人レベルから社会レベルまで広く好影響を波及させる力を持っています。



## (6) 現計画での取り組み

現計画では、「する」「みる」「ささえる」「ひろがる」を基本目標に、様々な取り組みを展開してきました。

### する

- 仙台国際ハーフマラソンをはじめとする市民参加型イベントの開催
- マイタウンスポーツデーの開催
- 学区民体育振興会などの地域スポーツ団体の活動支援
- 元気はつらつチャレンジカードやトワイライト・パスによるスポーツ活動支援 など

### ささえる

- 各地域スポーツ団体における指導者講習会の実施
- スポーツボランティアの養成講習会・マッチング企画の実施
- せんだいスポーツボランティアステーションの運営

### みる

- 大規模スポーツイベントの開催・誘致(全日本大学女子駅伝、実業団女子駅伝(クイーンズ駅伝)など)
- 本市に本拠地を置くプロスポーツ球団への地域密着支援 など

### ひろがる

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機としたスポーツ機運の醸成
- スポーツコミッションせんだいを活用した大規模スポーツイベントの開催・誘致

## スポーツの力が復興の大きな推進力に

現計画期間における本市スポーツの歩みは、東日本大震災からの復興とともにありました。震災から復興する仙台を発信することを柱に掲げ、1万人規模の市民参加型大会としてリニューアルした仙台国際ハーフマラソン大会の開催を皮切りに、本市に本拠地を置くプロスポーツチームの躍進、本市ゆかりのアスリートのオリンピックでの活躍など、スポーツは、市民一人ひとりの元気や輝き、まちの賑わいを取り戻すための大きな原動力・推進力となりました。

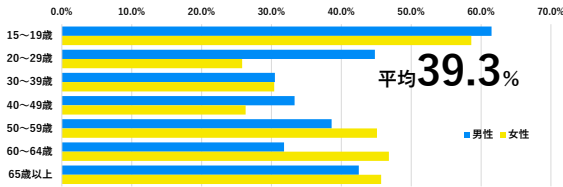
## 新型コロナウイルス感染症とスポーツ

新型コロナウイルス感染症による社会活動の低下は、市民のスポーツ活動量も低下させており、子どもから高齢者まで、あらゆる世代の心身の健康に影響を及ぼしています。同時に地域スポーツ活動も低調になっており、結果としてスポーツを通じた地域コミュニティの減衰等、地域社会の絆にも大きな影を落としています。こうした状況の中、心身の健康の維持、地域コミュニティづくりのためのスポーツの必要性が再認識されるようになってきました。

# (7) 本市スポーツの現状と課題

## 現状

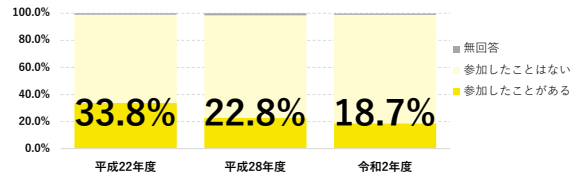
週1回以上運動やスポーツを行う市民の割合



「令和2年度仙台市スポーツに関する意識調査」

週1回以上、運動やスポーツを行う市民の割合は39.3%で、男性の30～64歳、女性の20～49歳はスポーツを行っている割合が低く、スポーツを行わなかった理由で多く挙げられたのは、「時間がないから」「機会がないから」でした。

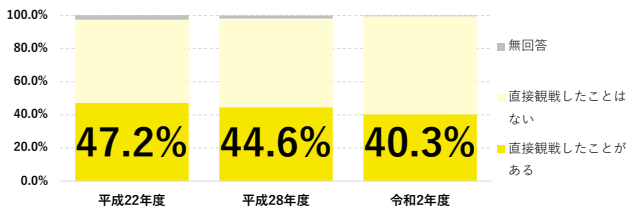
市や地域のスポーツ団体等が主催するスポーツ行事に参加する市民の割合



「令和2年度仙台市スポーツに関する意識調査」

市や地域のスポーツ団体等が主催するスポーツ行事に参加する市民の割合は18.7%で、減少傾向にあります。参加しなかった理由で最も多かったのは「知らなかったから」でした。

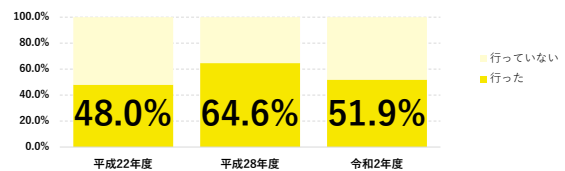
年1回以上競技場でスポーツ観戦する市民の割合



「令和2年度仙台市スポーツに関する意識調査」

年1回以上、競技場でスポーツ観戦する市民の割合は40.3%で、減少傾向にあります。競技場で直接観戦しない理由として、「時間がないから」、「興味がないから」、「テレビやスマートフォン等で観戦する方がよいから」が多く挙げられました。

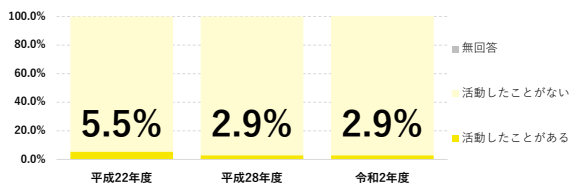
週3回以上運動やスポーツ・外遊びを行う小学校5年生の割合



「令和2年度仙台市立小・中・中道教育・高等学校児童生徒健康実態調査」

週3回以上、運動やスポーツ・外遊びを行う小学校5年生の児童の割合は51.9%でした。また、運動やスポーツ・外遊びをもっとしたい児童の割合は56.1%、運動やスポーツ・外遊びをすることが好きな児童の割合は63.8%でした。

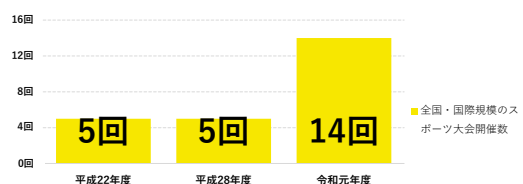
スポーツボランティア等の協力活動を行う人の割合



「令和2年度仙台市スポーツに関する意識調査」

スポーツボランティア等の協力活動を行う人の割合は、「活動したことがある」が2.9%で、したことがある活動で最も多かったのは「大会・イベントの運営の手伝い」でした。

全国・国際規模のスポーツ大会開催数



「仙台市スポーツ振興課資料」

令和元年度の全国・国際規模のスポーツ大会の開催数は14回で、うち7大会についてはスポーツコミッションせんだいが誘致に関わっています。

## 本市のスポーツ推進に向けた課題

- 子ども・高齢者・障害者・女性等、誰もが、いつでも、どこでも、自分に合ったスポーツが楽しめる環境づくり
- 地域におけるスポーツ活動機会の充実と担い手支援
- 誰もが観戦したくなる・観戦しやすいスポーツ環境の整備
- 子どもが遊びやスポーツを楽しむ機会の充実と体力・運動能力向上の推進
- スポーツボランティアの育成・活動支援
- 大規模スポーツ大会の開催誘致、スポーツと観光資源などを掛け合わせた本市ならではのスポーツツーリズムの推進

## (8) 目指す姿・基本方針

### 目指す姿

### “人とまちが元気に輝き続ける – Sports City SENDAI –”

スポーツに親しみ、楽しむことには、体を動かすといった爽快感だけではなく、心身の健康を育むとともに、スポーツを通じて人と人がつながることで地域の一体感が醸成されるなど、人やまちを元気に明るくする力があります。

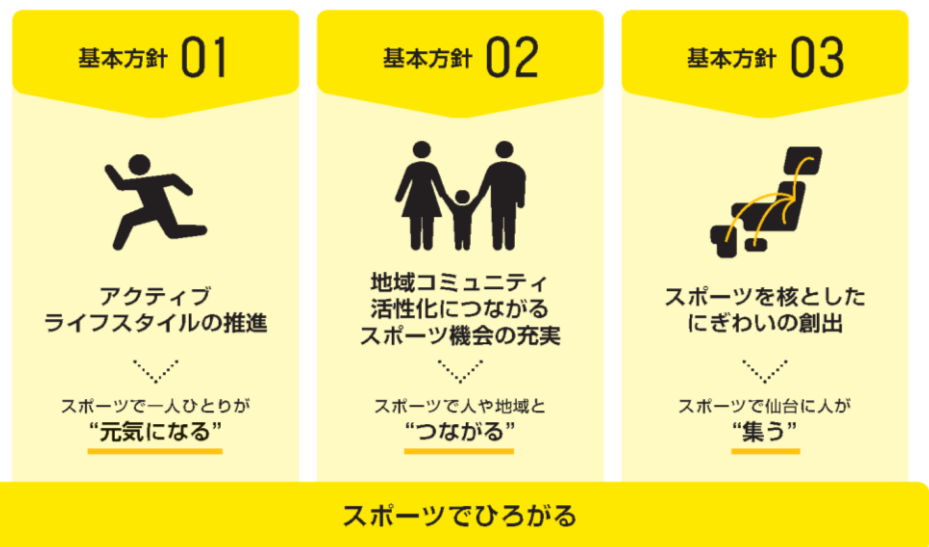
また、プロスポーツやトップアスリートのパフォーマンス、大規模なスポーツイベントは、感動や興奮、熱狂を生み出すなど、多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツであり、まちに活力や賑わいをもたらします。

こうしたスポーツの力は、私たちの生活の質の向上に貢献するとともに、東日本大震災からの復興においても、仙台の人とまちに大きな希望や勇気をもたらしてきました。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、仙台の人とまちが、未来へ向けて元気に輝き続けるために、スポーツの持つ力を最大限に活かすことで、「子どもから高齢者まで全ての市民が楽しく元気に暮らせるまち」、「人と人がつながり、ともに支えあう、健康で心豊かな暮らしを育むまち」、「人が集い、賑わう、活力のあるまち」の実現を目指します。

### 基本方針

3つの基本方針を掲げ「人とまちが元気に輝き続ける –Sports City SENDAI-」の実現に向けて取り組んでいきます。



本市では、健康づくりや美容のため等、日常生活の中で意識的・継続的に体を動かすことが習慣化された生活様式を「**アクティブライフスタイル**」として積極的に推進します。WHOは、「運動はどのような形でもよく、仕事や移動の最中、レジャー活動や遊びの中、さらにはガーデニングや掃除といった日常生活の中でも実施可能である」としています。通勤手段や買い物を自家用車から自転車にする、犬の散歩がてらジョギングを行う、電車やバスを一駅手前で降りて歩く、エレベーターをやめて階段を使用する等、意識的かつアクティブに体を動かしましょう！

## 基本方針 1

# アクティブライフスタイルの推進 スポーツで一人ひとりが“元気になる”

スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で楽しみ、喜びを得ることは、心身の健康増進や生きがいに満ちた豊かな生活の実現につながります。アクティブライフスタイルの推進により、楽しみや健康づくり等、市民一人ひとりが自分に合った形で意識的に体を動かすことによって、毎日の生活がより楽しく充実したものになるよう、それぞれのライフスタイル、スポーツへの関心や取り組みの度合いに応じた施策を展開します。

## 基本方針 2

# 地域コミュニティ活性化につながるスポーツ機会の充実 スポーツで人や地域と“つながる”

スポーツは、様々な立場や状況の人々が、楽しみや喜びを分かち合い、感動を共有するなど、ともに活動し、つながりを感じながら楽しめるものです。人と人の絆を培うスポーツの力による新たな交流の創出や、ともに支え合う一体感ある地域社会の実現に向け、身近なところで気軽に参加しやすいスポーツ機会の充実を図り、スポーツを通じた地域内交流やコミュニティの活性化を目指します。

## 基本方針 3

# スポーツを核としたにぎわいの創出 スポーツで仙台に人が“集う”

プロスポーツやトップアスリートのパフォーマンス、大規模なスポーツイベントは、感動や興奮、熱狂を生み出すなど、多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツであり、人とまちに大きな希望や勇気、元気をもたらします。本市ならではの多様な資源を効果的に活用した大規模スポーツ大会・イベントの開催・誘致やスポーツツーリズムの推進など、スポーツを通じて本市のブランド力をさらに高めることで、交流人口の拡大やまちの賑わい創出を目指します。

## SDGs とは

SDGsとは、2015年9月に国連サミットで採択された2030年までの持続可能な開発目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

また、同アジェンダにおいて、「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。」と述べられており、本計画においても「スポーツの力」を意識しながら、SDGsの主旨を踏まえ、持続可能な未来へ向けて、各施策の推進に取り組んでいきます。



## (9) 施策

基本方針	基本施策
基本方針 1 アクティブ ライフスタイル の推進	1-1 スポーツに親しむ意欲の喚起※重点施策
	1-2 子どものスポーツ推進※重点施策
	1-3 高齢者や障害者がスポーツに参画しやすい 環境づくりの推進※重点施策
	1-4 女性のスポーツ参加促進
	1-5 ビジネスパーソンのスポーツ推進
	1-6 身近にスポーツができる場所・機会の充実
	1-7 スポーツに関わる人材の育成と活動の場の確保
	1-8 トップアスリート等との連携・支援
基本方針 2 地域コミュニティ 活性化につながる スポーツ機会の充実	2-1 地域スポーツ活動への興味・関心の喚起
	2-2 地域スポーツ活動の機会創出※重点施策
	2-3 地域スポーツ活動の担い手支援
基本方針 3 スポーツを核とした にぎわいの創出	3-1 本市スポーツイベント等への興味・関心の喚起
	3-2 スポーツツーリズムの推進※重点施策
	3-3 スポーツを魅せる環境づくり
	3-4 新たなスポーツ産業等との連携
	3-5 スポーツボランティアの育成・支援



## 施策の内容

① スポーツの楽しみ方や効果等の情報発信	
② スポーツをするきっかけづくり	
③ 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催	
① 親子で体を動かすきっかけづくり	④ 食育の推進
② 子どもが遊ぶ・スポーツを体験する機会の創出	⑤ 学校体育の充実
③ 子どもの健康な体づくりと体力・運動能力向上の推進	⑥ 運動部活動の充実
	⑦ 競技活動支援
① 高齢者のスポーツ活動支援	
② 障害の有無に関わらず、誰でも楽しめるインクルーシブスポーツ※ <sup>1</sup> の普及・促進	
③ 障害者スポーツの普及促進・活動支援	
④ スポーツ施設のユニバーサルデザイン※ <sup>2</sup> 化等の推進	
① 女性のライフステージやライフスタイルに合わせたスポーツメニューの提案	
② 女性のスポーツ参加をサポートする環境づくり	
③ 親子で体を動かすことができるイベントの開催	
④ 女性の継続的なスポーツ実施に向けた支援	
① 気軽にスポーツに取り組める環境づくりに向けたプロモーション活動の実施	
② ビジネスパーソンがスポーツ施設利用促進	
③ ビジネスパーソンがスポーツ活動機会の充実	
④ 親子で体を動かすことができるイベントの開催	
① スポーツ施設やスポーツイベント等に関する情報発信	
② 市民ニーズに応じた施設サービスの充実	
③ 施設機能の維持・向上	
④ 広告収入等を活用したスポーツ施設の充実	
⑤ 身近なところで体を動かせる空間づくり	
① スポーツ指導者等の養成・資質向上	
② アスリートや地域スポーツ指導者等を効果的に活用する仕組みの検討	
③ スポーツ活動に貢献した人の表彰	
① プロ・トップスポーツチームやアスリート、企業・大学等と連携する仕組みの創出	
② 本市ゆかりのアスリートが活躍する場の創出	
③ アスリートの競技活動支援	
④ 優秀な成績を収めたアスリートの表彰	
① 地域スポーツ団体の活動紹介やスポーツイベント等の情報発信	
② プロ・トップスポーツチームや学生等と連携したスポーツ情報・魅力の発信	
① プロ・トップスポーツチームやアスリート、企業、大学等との連携による地域スポーツ活動の機会創出	
② 市民参加型の多様なスポーツ・レクリエーション大会やイベントの開催	
③ 地域スポーツ・レクリエーション活動のイベント開催支援	
① 地域スポーツ団体の活動支援	
② スポーツ活動に貢献した団体の表彰	
③ 地域スポーツ団体の活動のあり方に関する検討	
① 本市のスポーツ大会やイベント等の情報発信	
② 本市ゆかりのアスリートやプロ・トップスポーツチームとの連携・協働による応援機運の醸成	
① スポーツコミッションせんだいと一体となった大規模スポーツイベントの開催・誘致	④ アーバンスポーツ※ <sup>3</sup> の振興
② プロ・トップスポーツチームとの連携による誘客促進	⑤ 本市スポーツツーリズムのブランディング化に向けた調査・検討
③ アウトドアアクティビティの活用	⑥ スポーツコミッションせんだいの機能強化
① 様々なスポーツ競技の紹介	
② 誰もが観戦したくなる・観戦しやすいスポーツ環境の整備	
③ スポーツレガシーの保存・活用	
① スポーツにおけるデジタル技術の活用やeスポーツ等新たなスポーツ産業との連携に関する検討	
② 医学と連携したスポーツ障害の予防、スポーツ医学を活用した健康づくり・体力づくりの推進	
① スポーツボランティア活動への関心喚起	
② スポーツボランティアの養成	
③ スポーツボランティアの活動機会の創出	

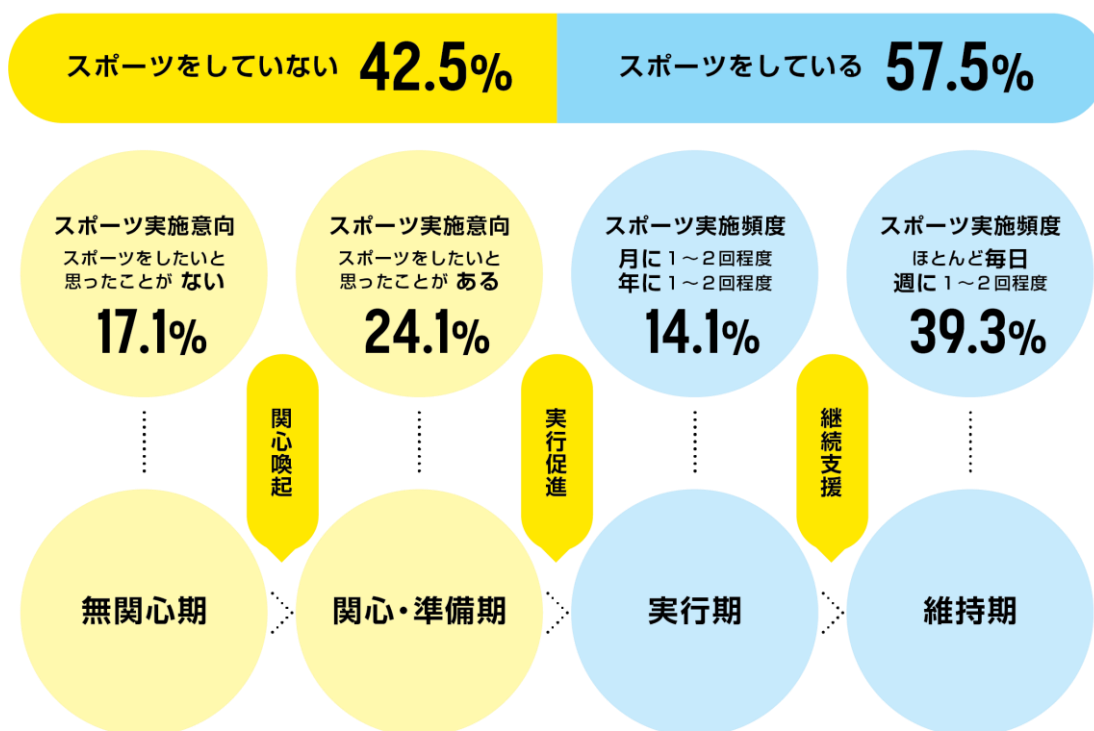
## (10) 施策の展開

3つの基本方針に対するスポーツ施策を、「する」「みる」「ささえる」の観点から整理するとともに、市民意識調査の結果を踏まえて市民一人ひとりの実態・実情、スポーツに対する関心や取り組みの度合いに応じた効果的な施策を展開していきます。



### 市民意識調査

[例: スポーツに対する関心や取り組みの度合いに応じた施策の展開]



※数値はR2「スポーツに関する意識調査」結果より  
※「その他」「無回答」は含まないため合計しても100%にならない

## (11) 計画の進捗管理

本計画の施策や取り組みを着実に推進していくため、年度ごとに現状把握・評価・見直しを行います。また、中間年（令和8年度）に必要な見直しを実施する予定です。

## 成果指標

	指標	現状値	施策	目標値 (R8)
総合	週1回以上スポーツを行う15歳以上の市民の割合	39.3%	▶▶▶	70%
個別	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している15歳以上の市民の割合	-		50%
	週3回以上運動やスポーツを行う仙台市立小学校の児童(5年生)の割合	51.9%	▶▶▶	65%
	元気はつらつチャレンジカードの100回達成者・ゴールド賞・シルバー賞獲得者の合計	896人	▶▶▶	1,800人
	障害者スポーツについて、「する」「みる」「ささえる」のいずれかの活動を行う15歳以上の市民の割合	-		20%
	市や地域のスポーツ団体などが主催するスポーツ行事等に参加する15歳以上の市民の割合	18.7%	▶▶▶	35%
	年1回以上市内の競技場等で直接スポーツ観戦する15歳以上の市民の割合	40.3%	▶▶▶	50%
	スポーツボランティアなどの協力活動を行う15歳以上の市民の割合	2.9%	▶▶▶	8%

## 用語解説

### ※1 インクルーシブスポーツ

共生社会の実現に向けて障害の有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツのこと。

### ※2 ユニバーサルデザイン

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

### ※3 アーバンスポーツ

「エクストリームスポーツ」と呼ばれる速さや高さを極限まで追求し、華麗な離れ業を競い合うスポーツの一種。そのエクストリームスポーツの中でも都市型のスポーツをいう。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で採用された、スケートボードやBMX(自転車)、スポーツクライミング、バスケットボール3×3のほか、パルクール、ブレイクダンス等がある。

